

講義名	ネットコミュニケーション			授業形態	
担当教員	寺口 敏生	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

#### 主題と概要

携帯電話やスマートフォン等の情報通信機器の普及と発展に伴い、コミュニケーションに関する多様なネットサービスが日々開発・提供されているという社会的背景がある。本講義では、インターネットを介したコミュニケーションが人間社会にもたらす変化について、さまざまな領域の事例を紹介しながら理解・分析することを旨とする。

#### 到達目標

人間の認知やネットコミュニケーションに関わる事例の理解を深めることで、インターネットを介したコミュニケーションにまつわる現象を主体的に分析できるようになる。

#### 提出課題

講義中に、講義内容に関するレポート課題を出題する。

#### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポート等のフィードバックは最終の講義中に行う。

#### 評価の基準

期末試験は実施せず、講義中に出題するレポート課題にて評価する。レポートの内容は3段階評価とする。レポート課題は、基本的に次回講義までに提出することとする。

#### 履修にあたっての注意・助言他

2回目以降の講義資料は、講義開始前にWeb経由で提供する。レポート課題は、事情の説明があれば期日後も受け取るが、配点が少なくなる点には留意されたい。

#### 教科書

.使用しない。

#### 参考図書

.なし。

#### その他

#### 授業計画

1. ガイダンス
2. ネットコミュニケーションとソーシャルメディアの概要
3. 人間の認知
4. コミュニケーションの形態
5. ネットコミュニケーションの明確
6. SNSと承認欲求
7. 炎上のメカニズム
8. スティマ情報との付き合い方
9. フェイクニュースの現在
10. 情報発信（14回目を並び替え）
11. インターネットによる学び方の変化
12. インターネットによる働き方の変化
13. ネットコミュニケーションの今後
14. 講義のふりかえり
15. まとめ

#### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

#### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義中で紹介する内容は、あくまで自己学習の導入である点に注意すること。講義後は、講義内で紹介した内容を追加調査し、自分なりに整理して資料化することが望ましい。については、1回の講義につき4時間程度の自己学習を推奨する。

#### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「人間の精神機能と心理学に関する基礎的知識の獲得」と「意見や立場の違いを理解し、インターネット上で能動的にコミュニケーションする能力の獲得」を達成することで、総合的考察と情報処理能力に秀でた人材を育成するための科目である。

#### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義に関する質問は、講義時間外でも随時受け付ける。

#### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり。具体的な事例を基に講義する。

#### 備考